

第13回 文化・産業のまち部会 会議録

- 1 開催日 令和元年6月19日(水)
 - 2 場所 新見市役所3階会議室
 - 3 出席状況 出席8名
 - 4 事務局出席者
1名
 - 5 議事内容 (1) 開会時刻 午前 9時30分
(2) 閉会時刻 午前11時00分
(3) 審議の経過 以下のとおり
-

開 会 午前 9時30分

- 1 開会
- 2 あいさつ
○部会長あいさつ
- 3 協議
○前回までに出た以下の項目について、具体的な意見を出し合った。
 - (1) 新見市に営業マンをつくる
 - ・ふるさと大使を巨人軍高田氏に委嘱したが、市職員ひとりひとりがふるさと大使だという意識が必要＝内側からの改革。
 - (2) 他にないところやいいところをアピールする
 - ・観光協会にも市の移住施策に関するパンフレットを設置してもらおう。
 - ・観光協会としっかり協力して、市外への発信に力を入れるべき。
 - ・SNSやHPで魅力発信（新見は住みやすいなど）をしっかりとする。
 - ・具体的なことを発信しないといけない。
 - ・いかに安価でPRするか。
 - ・多くの来場者が見込まれるイベント会場などへ、PRチラシを設置する。
(すずらんまつりの総合案内に立ち寄ったが、PRにつながるようなものが何も置かれていなかった)
 - (3) 補助制度の見直し
 - ・全国に先駆けて、全国にないような補助制度でないといけない。
 - ・視点を変える必要がある。
 - ・高齢化対策とUターンを考えるきっかけ作りとして、75才以上の世代と同居している人への『同居手当』。
 - ・住みやすいまちにするための新見市独自の補助制度はいいが、見通しを立

てることが大切で、財源についても考える必要がある。

- ・若い世代の移住者に聞いてみたところ、移住関係の補助制度が手厚いことと人の良さが、新見を移住先として決めた最終的な理由だった。見直しのなかで、Uターンを考えている定年世代をターゲットとした補助制度という発想はいいかもしれない。
 - ・新規就農などには手厚いが、継承（継業）には補助制度がない（Uターンの人の働き先）。
 - ・免許証を返納した高齢者の、タクシーやバス利用に対する補助制度。
- (4) 移住者がコミュニティに受け込みやすくする
- ・新見駅西エリアの整備について、交流の場（マルシェ開催など）を充実させれば駅の利用も増えるのではないか。
- (5) 生活環境を整える（新見でも暮らしやすい、田舎でも便利）
- ・新見市には色々な補助制度はあるが、まとまっていなくてわかりづらい。

○その他

- ・市役所のワンストップ窓口の充実
- ・民間分譲地の活用。
- ・移住とUターンを同様に考える。
- ・新見市出身者（市外に出ている人）へのアンケート
- ・どのような制度があればUターンするか聞いてみたい。

○次回会議：令和元年7月29日（月） 9：30～

移住・Uターンの推進、積極的なPR、新制度について、答申のたたき台を作る（強制ではないが文案を作成してくる）。

4 次回までの事務局作業

- ・『同居手当』全国で取り組んでいるところがないか調べておく。
- ・「⑦多様な人が集い、交流し、活躍するまちをつくる」分野について、市WGの資料を用意する（どんな意見が出ているのか見たいという声あり）。

5 閉会

○副部会長あいさつ

閉 会 午前11時00分